

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370500393		
法人名	有限会社 スマイル・タム		
事業所名	グループホーム 赤い屋根の家		
所在地	岡山県笠岡市大井南25-11		
自己評価作成日	H21.9.23	評価結果市町村受理日	H21.9.24

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	H21.10.14

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「みんな一緒に楽しい笑顔 ゆっくりのんびりと出来ることは自分らしく頑張ろう」という、生活に密着した理念を掲げ「悲しい時は一緒に悲しみ、嬉しい時には共に喜び、不安や寂しい時には傍に寄り添う」という手のひらのぬくもりを感じられる介護に取り組んでいる。  
入居者と家族の良きパートナーとなれるよう努力し、人生の最後に出会った人として「あなたに会えてよかった」と思えるような介護を目指している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・開所以来9年目を迎えるが外部評価では常に高い評価を得ており みんな一緒に笑顔で楽しいホーム生活を標榜に職員・入居者共に生活を楽しみ人間性を活かし、入居者の尊厳と個性を大切にしている。  
・運営推進会議を通じて地域との密着と活性化に努めているが、今一步地域に浸透して、地域密着型の本旨に則した努力を願ひ、又、自己評価は職員全体で取り組み職員全員が自分たちの運営を振り返る学び合いの機会と捕らえる事を期待します。  
・「赤い屋根の家」のホームページはカラフルで充実しており、ホームの機能紹介は基より、介護福祉の情報が直ぐリンク出来て分かりやすい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂やトイレ等、目に入りやすい場所に理念を掲示し意識向上を図っている。	理念は食堂・居間・事務室・トイレと各所に掲示され、家族・地域も含めて「みんな一緒に笑顔で楽しく」は、職員全員に理解され、それを基本に支え合いの精神が実施されている。	開設の原点「自分が年老いたら、寄り添いながら共に暮らす。」それを理念に掲げて、地域貢献する運営方針を徹底し名実共に地域と支え合うホームになることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のデイサービスを通して地域との交流が来ている。	町内会とホームの行事に相互参加を目標にしているが、身体機能の低下によりあまり参加していない。デイサービスを月1回元気高齢者に開放し、介護相談等にもって地域に還元している。	地元町内会に加入し御神輿も回ってくるが、地域の情報が十分に伝わっていない。地域との支え合い強化の観点から、事業所がさらに地域にお役に立てる取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第2土曜日には地域の元気な高齢者に集ってもらいボランティアで支援している。地域の中学生のいきいきチャレンジを毎年受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の方と話し合った結果年2回にして欲しいとの要望で年2回行っている。現状報告をしているいる相談に応じてもらっている。	笠岡市の都合により、年2回の開催で、ホームの運営状況等を報告しているが充分機能していない。地域でサロンを催し認知症の高齢者の方々との共有の場を作りたい意向を持っている。	運営推進会議の柔軟な運営が今後の課題と思われる。又省令に基づき2ヶ月毎の開催を実現し、会議を重ねる中に於いて地域の理解を深め協力体制が強化されることを願います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者の人とは些細な事でも相談にのってもらっている。何でも話し合える関係作りをしている。	日常から市の担当者とは相談・問い合わせ・訪問をして介護保険制度改正に関する要点等をも情報交換している。市からも適切なアドバイスもあり、良い連携・関係が作られている。	ホーム自ら提案を持ち担当者のコンセプトを把握、ホームの研修会・勉強会に招請して市当局を啓発する地域福祉の現場を預かる専門員として活動されることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間・早朝以外は施錠していない。利用者の安全確保の為にどうしてもベッド柵の必要な人にはベッド柵に関する同意書を家族にもらっている。又、言葉掛けなども気をつけている。	身体拘束廃止委員会をホーム内に設置し、拘束手続のマニュアルを設けて拘束を行わないケアを徹底している。同時に利用者への言葉掛けにも留意し、人権擁護に努めている。	身体拘束しないケアには利用者の安全と家族の不安を払拭することが必要です。家族の同意に頼る運営でなく、個性の把握、見守を重視する姿勢が、家族に安心感を与えます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これから勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書の中には一人ひとりの1ヶ月の様子・写真を入れて家族に現状を知らせている。又、変化のある時にはすぐ電話で知らせている。	ホーム誌「スマイルメール」を定期的に発行し、家族会等にホームの状況をお知らせし、意見箱を設置、提案・苦情を受け付け、本人・家族・の意見・要望をホーム運営に反映させている。	家族・利用者は情報提供を受け運営推進会議のメンバーにも参加しているが、なお、積極的に意見・要望をくみ上げるシステムを構築すれば、よりサービスの質・向上に繋がるものと期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を週1回、合同スタッフ会議を月に1回行って、職員の意志統一を計っている。	代表者・管理者は職員の話をよく傾聴している。自分の判断が迷うときには職員の意見を聞き、入退居の判断はもとより、職員の勤務体制も意見を徴している。	代表者が職員の意見を良く聞き、提案を生かしており、職員はやる気を持ち離職者が少ない。職員のホームへの信頼は厚く、これからも職員と共に作る運営体制確立を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はスタッフ会議に同席し、スタッフの意見・希望を聞き入れようとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自分たちで年間研修計画を立てて研修の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の取り組みをしていたが今は続いていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時、入居日に時間を取り、家族の話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話を真剣に傾聴して家族の要望に応えられる支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話を深く傾聴して、自分達の知らない事を教えてもらうなどして信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密に取り家族の負担のない範囲で利用者との関わりを持ってもらうように、職員と一緒に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向のもと、出来るだけ支援しているが全員とはいかない。	母の33回忌に職員が付き添い同行、大勢の親類に囲まれ大変喜ばれた。又ドライブで親類の傍まで行くなど、本人の馴染の場所や人とのふれあいを支援して人間関係継続を断ち切らないようにしている。	利用者の希望に出来るだけ応じることがこれからの課題でもあるが、家族・地域の関係者と相談しながら、本人が馴染の関係を維持出来るように積極的なアプローチを心掛けてください。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がベットに寝たきりの人のところに行き話しかけたり様子を見に行ったりしている。「一人じゃないよ。」と声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もお見舞いに行ったり季節事のハガキを出すなど努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	赤い屋根の家独自のアンケートや様子観察から入居者一人ひとりの思いを理解しコミュニケーションを大切に穏やかな対応をしている。	赤い屋根のアセスメント様式で個々に細かく過去の生活歴などを聞き、入居時にも本人・家族の希望をアセスメントして、個々の思いや意向を把握するようにホーム全体で努力しているのが記録に有る。	変化する個人の要望を早く、的確に把握することにより、ホームが次に何をすべきか、何に留意すべきかを予測し、より本人本位の人間性あふれるホームとなることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らしを一番に考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の入居者に合わせた支援を皆で考え、現状に即した介護計画を作成している。	面会時に職員と話し合い、本人の意向は日常生活から聞き取り、管理日誌で申し送りされ、それを基に関係者の意見を参考に課題を探り、介護計画に結び付けている。3～6ヶ月毎にモニタリングを実施。	地域密着型生活を支えて行くには本人・家族の状況変化に柔軟・迅速に対応して、毎月の目標を、日々モニタリングして本人の身体状況・社会的環境を考慮して、柔軟な計画を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別のファイルに毎日の健康チェックや活動の様子を記録している。管理日誌と申し送り帳を使って情報伝達を行って全員で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との密接な関係があり、いつでも相談に応じてもらえる。入居者・家族共に安心が得られている。	入居時に本人・家族と相談し、24時間対応可能な協力医を、かかりつけ医にお願いしている。専門医の受診もある。インフルの予防注射等は家族に電話して同意を貰っている。	協力医委嘱は本人・家族と納得するまで話し合い、本人の医療情報を詳しく協力医に伝え、受診結果は家族と共有が大切です。インフル予防摂取には家族の同意文書が適切です。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き担当の先生と連携を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との連携を一番に考え家族の要望をしっかりと受け止めて終末期を迎えている。	早くから「看取り指針」を設け、本人の及び家族の意向を最大限に尊重しターミナルケアを行っている。入居時に重度化した場合と看取りの説明も、現実重度化した時は再度家族を含めて段階的に協議している。	「看取り」は指針だけでなく、重要事項説明書・契約書にも明確に記述して、入居者を最後まで責任を持って満足していただくケアを行う方針を示し、人間尊重のホームを目指しその具現化に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットを積極的に書き、原因と対応・今後の対策を検討し、問題発生防止に繋げていこうとしている。応急処置や初期対応の訓練は定期的に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は入居者を交えて年3回実施している。運営推進委員会の席でも火災時等には地域の協力は惜しまないとの町内会長の言葉をいただいている。	防災マニュアル・防災計画を設け、年3回火災訓練、夜間を想定して避難訓練も入居者も参加して実施。人身災害防止を一番の目的に掲げている。	地域特に近隣の協力が直ちに期待できる体制を具体的に構築し、シミュレーションを積み重ね、あらゆる災害に対応出来るように介護事業者同士の情報交換も大切でしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの思いを理解し、排泄時の声かけや気配り等は、介護計画にもきちんと明記されている。	利用者のプライバシー保護の取り扱いマニュアルを設定し、他のマニュアルからも人格尊重の原則が伺える。呼称・声掛けにも高齢者を敬う姿勢が伺われた。	高齢者介護の最重要点は「尊厳」と言われ、認知症介護には特に求められています。「いっしょに笑顔で」の理念においても、さらに利用者個々の性格特徴を把握し、尊厳有るケアを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者が自由に思いを伝えたり感情を表したり出来る様に、一人ひとりの特徴やペースに合わせて優しく穏やかに接し、入居者の言葉や態度での訴えを見落とさず受け止めていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食場面ではゆっくりと味わって食べている方、早く済ませてソファーに移動する方、食器を流しに片付けている方などおられ、職員は入居者のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の人にホームに来てもらってパーマ・カットをされる方もおられるが、多くの方は職員が整えている。エステのボランティアの来訪時はマニキュアやお化粧をしておしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ・食器運びなど、職員と一緒に楽しんで準備・片づけをしている。が、強制はしないので決まった人になってしまう。	出来る人には下ごしらえから、一緒に食事作りをしており、職員は利用者と同じテーブルで会話しながら共に食べ、後片付けもしている。食事への関心を引き出し自発的に前向きに、喜んで手伝うように工夫している。	食の楽しみは気心のしれた人との語らいに有るとか、職員は利用者の好みを把握し何に関心が有るか話題を選び、共に献立表を作るなど食事をホーム生活の潤いの中心としていくことを勧めます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事作りをしている。嚥下状態に合わせて形態を工夫し食べやすくしている。水分補給には気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後に口腔ケアを行っている。義歯は毎夕食後、流水で洗ってから洗浄剤を使用し、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの状況を把握し、誘導や動作の援助を行い、自立に向けた支援を行っている。	本人の排泄サインやパターンを全職員は把握し、画一的な排泄支援ではなく、個々に合ったタイミングと個別支援内容により、排泄の自立に繋がる工夫が見られる。	現在の排泄介助は着実に自立に向かって効果を上げています。今後はさらに本人の個性をより細かく把握し、排泄自立を推進し、人間としての尊厳を取り戻されるように支援願います。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックも記録して一人ひとりの状態の把握に努めている。便秘の人には水分補給したり乳製品や食物繊維を食べていただき運動も心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック等で健康状態を確認し、本人の意思を確認してから入浴の可否を見極めている。便失禁があればシャワー浴を行っている。	利用者の希望に添って弾力的に支援、入浴剤、暖簾に「ゆ」と温泉気分を醸し出している。職員とは1対1で会話を楽しみ、歌を歌いながら入浴する人もあり、本人の意向に沿った入浴支援が出来ている。	リラックスして入浴を楽しむ事のできる更なる支援を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時には消灯をして眠りやすい環境を心掛けている。夜中に眠れず起きて来られた場合は職員は静かに対話したりホットミルクを飲んでもらい入眠へと繋げている。眠剤は使用していない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一日分を個人別に分けてケースに保管している。服薬時にその日の担当職員が一人ひとりに手渡し飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夕方不穏になる人には居室でスタッフと2人きりで30分から1時間位、その人の話を傾聴している。又、外に散歩に行きたい人にはスタッフが付いて一緒に散歩を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のいい時は玄関先で日向ぼっこをしたり近くの観音様まで散歩に行ったりしている。又、時節に応じ、花見・海・山へとドライブし気分転換を図っている。	四方を山並みに囲まれ丘陵地帯で散歩コースには恵まれ、好天の日は近くの観音様まで散歩が日課になっている。ドライブにはデイサービスの休日に車を借りて出掛け、買い物は嫌いと言う利用者もある。	玄関先の庭が駐車場で屋外で過ごすスペースがない。早めに職員の駐車場確保を勧めます。外出は利用者・職員双方にストレス発散になり、サポーターや地域の協力を得て外出支援を期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が難しくなり、少額でも自分で持っている人はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しているが、なかなか難しい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを手作りして飾って季節感を味わってもらっている。	共有空間は広くはないがソファもテレビも置かれ、落ち着いて一人で過ごせる場所もあり気のあった同士語らいのコーナーもある。季節感の飾り付けもあり、過ごし安い工夫が見られる。	家具のレイアウトだけでなく、色彩・採光・音・香り・感触等五感に訴え居心地を良くする工夫がなされているが、これからも利用者の精神的バランスに配慮する共有空間作りを心掛けてください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での席順を変えるなど気配りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には小さな仏具、又、テーブルやテレビ等を持ち込み、入居者が過ごしやすいように配置してその人らしい居室作りをしている。	個室には馴染の家具・調度を持ち込まれ、各部屋とも居心地の良い部屋になっている。自分の写真入りのカレンダーや家族の写真を持ち込まれ個性が感じられる居室作りがなされている。	利用者本人の意向を確認しながら、利用者の心の変化をくみ取り、より居心地の良い個室作りに取り組むことを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入口には写真や手作りの花を飾り、名前がフルネームで書かれている。部屋の床の色も一人ひとり違っている。トイレは「便所」と書いて風呂は「ゆ」ののれんをかけている。		